

平成23年3月7日（月）18:30～20:35 三重県伊賀庁舎

- 1 会長あいさつ
- 2 報告事項等 ・ 第1回協議会の概要 ・ 補足資料説明
- 3 協議

**田山委員** あけぼの学園高校は伊賀白鳳高校設置の際にどうして統合しなかったのか。

**山口副教育長** 平成18年に実施した広く意見を聴く会では、あけぼの学園高校は不登校の生徒や学習の進捗が遅れている生徒に対してきめ細かく対応し、成果を上げていることから、存続を求める意見が多かった。

**田山委員** 学校の特殊性もあるので存続していこうという流れか。

**山口副教育長** 再編活性化計画では2学級でも特色ある学校は残していくこともあることがうたわれている。ただし、意見を聴いた当時から5年が経過し、伊賀白鳳高校ができるなどの状況の中、子どもたちのためにはどうあるべきか、地域で支持されているかどうかが大変であり、地域の人たちで考えていただく大きなテーマである。

**中谷委員** 定時制教育について、伊賀などで協力校を設けていくということについても少し説明してほしい。

**事務局** 上野高校も名張高校も希望者が少ないという状況の中、定時制をどうしていくかということは課題であるが、これとは別に、全日制でなかなか学びにくい生徒もいる状況の中で、定時制と通信制をどのように充実させていくかという視点で進めている。

**中谷委員** 元々は上野高校の定時制と名張高校の定時制を統合しようということであったが、それが消えたわけではないということか。

**山口副教育長** 3部制の定時制を作ってほしいという地域の声も若干あったが、近鉄伊賀線の将来が分からない前提で議論するのは難しいということになった。

**味岡委員** 伊賀市と名張市に一つずつ総合学科がなければ、伊賀から名張へ通うのはたいへんなことである。そういう意味であけぼの学園は必要であり、定時制も同じだと思う。

**会長** 伊賀にはブラジルやペルーなど外国人の子どもが多いが、外国籍生徒の教育についても次の再編活性化の時には考えていかなければならない項目だと思っている。

**味岡委員** 伊賀市は外国人の子どもが多く、その進学先の一つが定時制である。

**福岡委員** 保護者としては負担が少ないことが大切であり、近くの普通科に通えるように入学定員を増やしてほしい。定時制について、山添分校に16人進学しているが、上野・名張の定時制との関連はどうか。また、伊賀白鳳高校は、後期選抜で入学してから学科を決めることになっているが、その検証もお願いしたい。

**事務局** 山添分校は、農業科と家庭科からなる昼間定時制の学校で、公立高校に不合格になった生徒が、二次募集で受検しており、在籍者の約半数が伊賀からである。

**味岡委員** あけぼの学園高校では、パティシエや理美容など生き甲斐を感じて学んでいる子が多く、倍率も高くなっており、不合格になれば伊賀で行くところがない状況にある。

**田中委員** 山添分校は特別支援学級にいる生徒でも、コミュニケーションができれば受検して合格できる。そういう子どもたちが学べる場所である。

**会長** 特別支援の必要な生徒や外国籍生徒が高校の教育を受けられる仕組みを考えて行かなければならないということが論点としてある。

**作本委員** 一般的な保護者の願いは、経済的負担が少ない近くの学校に行ってほしいということであるが、子どもが第一希望に合格しなかった場合に、学校の選択肢が少ないと必然的に遠くまで通わなければならなくなってしまう。

**会長委員** 子どもの数が減っていくと、高校の数も減らしていかざるを得ない。伊賀と名張は近いようで遠く、保護者が駅まで毎日送って子どもの就学を支援している状況が多いということは今後の適正配置を考える際には考慮しなければならないことである。

**味岡委員** 近大高専の影響が大きく出てくると思う。名張市の2つの普通科高校を4学級規模で置いておくのか、8学級で統合していくのか、それを考えていくことがこの協議会の最大の課題である。

**中谷委員** 近大高専の評価は短期間で見極められることなく、場合によってはまた撤退することもある。そうなったときに、名張西高校と名張桔梗丘高校が統合されていると、名張の選択肢がまた一つ減ってしまうことになる。

**山口副教育長** 平成18年度の協議のまとめでは近大高専の移転は全く想定していないが、そのことによって、(再編が)加速するののかということである。普通科高校の規模は8学級ぐらい必要であり、総合学科も5学級でぎりぎりである。この5年の間に伊賀地域の子どもたちの流れがどう変わっているのか検証する必要がある。

**味岡委員** 保護者の立場からは、選択肢が多い方がいいと思うが、1学年4学級の高校は規模が小さく、教員の配置も少なく、学校の活性化や部活動の問題もある。1学年8学級の学校が一つの方が生徒数も多く、部活動も盛んになるので活性化すると思う。

**池原委員** 普通科でも専門的な科目を指導する必要があるし、4学級規模だと一人の教員がたくさんの科目を担当しなければならない。粗い教材研究で授業をすれば結局生徒に迷惑がかかる。適正規模は3学級から8学級であるが、3学級と8学級では全く違う。

**会長** 協議事項の2番目の「平成24年度以降の伊賀地域の高等学校の在り方」についても自由に意見を出してほしい。

**田山委員** この会議は再編であるといっているが、普通のイメージだと縮小である。

**味岡委員** 今のような少子化の時代になると、学校は縮小せざるを得ない。伊賀市でも平成17年と平成27年を比べると小学生が1000人減少する。それ以後どれだけ減るかということは見えない。

**福岡委員** 魅力ある高校であれば名張から他地区へ流出するのではなく流入してくるという議論も大切であると思う。

**加藤委員** 伊賀と他地区との交通機関は不便であり、中勢地区や松阪地区から大量に生徒を募集できるような状況にはならない。伊賀白鳳高校は7学級規模であるが、数は力だと感じる。生徒の学力差が大きくても習熟度別の授業やTTができるのも規模が大きいからである。学校の中で生徒たちが自分の学習したいことを選んで学習することは、達成できている。ただし、高校の数から見ると選択肢は少なくなっている。

**小倉委員** やはり親は近くの学校に行ってほしい。名張と伊賀で同じような学校がそれぞれあって、それぞれの市の学校に行けるという形になっていくのが理想的かと思う。

**廣岡委員** 校数を減らして将来子どもが増えた場合の対応が可能なのかということも考える必要がある。子どもたちが行く場所がないというのが一番困る事態である。

**会長** 今日の議論では3～5学級は小さすぎるのではないかという意見があったと思う。

**中谷委員** この地域で8学級の学校を4校つくった場合、学力差が大きくなるのではないか。また、あけぼの学園高校に行く子どもたちはどこに行くのかという問題が出て

くる。

**山口副教育長** あけぼの学園高校については、地域の協議会でまだまだ議論すべき問題である。

**味岡委員** 普通科高校の場合は、数の論理が質の論理になってくると思う。教育内容の質を高めようとするならば数の論理を一定に整えていかなければならない。

**上島委員** 経済状況のため地元の高校に行く生徒が増えている状況の中、幅広い子どもを受け入れることができる高校を考えていかないと、ニーズに応えていけないと思う。

**会長** 今後も伊賀を一つと考えると、高校が活性化されていく議論をお願いしたい。